

IV おわりに

平成20年（2008）診断分の広島県地域がん登録報告書が完成しました。作成に当たられました関係者の皆様に深甚なる謝意を表したいと思えます。今回まとまった平成20年（2008）診断のがんに関する報告書の概要は、

罹患数：男10,753件（11,820件）、女8,143件（9,152件）、合計18,896件（20,972件）

罹患率（昭和60年日本人モデル人口）：人口10万人対 男453.3(500.5)、女313.2(367.0)、男女計371.4(420.9)

ID比：2.36(2.61)

DCN%：9.9%（9.0%）

DCO%：5.2%（4.7%）

となっています（括弧内は上皮内がんを含む値）。広島県地域がん登録の完成性ならびに登録精度の向上は、多くの関係された皆様の努力の賜物と考えています。

平成20年（2008）診断分の県内の上皮内がんを除くがん罹患数18,896件を資料源ごとにその関与の割合で見ますと、広島県地域がん登録情報が76.0%、広島県腫瘍登録情報が70.3%、広島市地域がん登録情報が7.1%となっており、前2者は昨年の報告書に比べて数%それぞれ増加し、一方、広島市地域がん登録は若干、関与の度合いを弱めていることがわかります。県内で行われている前2者の登録の完全性がさらに上昇する一方で、地域がん診療連携拠点病院での院内がん登録の整備につれて広島市地域で行われている採録が徐々に広島県地域がん登録に置き換わりつつある状況が示されていると思われました。

今年の報告書には罹患と死亡の年次推移が新たに加わりました。平成14年（2002）に開始された広島県地域がん登録が充実し、経過を追えるだけの時期に到達していることをうれしく思うわけですが、その内容は私たちを驚かせるものとなっています。すなわち年齢調整罹患率の変化で見ますと、広島県の特徴でもある肝および肝内胆管がんが男女ともに減少する一方で、女性の乳がんは明らかな増加傾向を示しておりました。肝および肝内胆管がんの年齢調整死亡率は男女ともに下がっておりますので、肝炎ウイルスに対する対策が効を奏していることを強く感じさせてくれます。一方で乳がんの年齢調整死亡率は実数とともに上昇傾向にありますので、検診の受診率向上など一層努力しなければならないでしょうし、欧米化した生活習慣がその基盤にあることも強く感じさせてくれます。今後の動向から目が離せないところです。

平成23年（2011）度に試行した住基ネットを利用した生存確認調査での予後不明割合は2.0%でした。生存率算定に十分な環境が整っていることがわかりました。今後、生存率も含めて広島県地域がん登録の利活用を推進し、県民のために役立てるよう努力したいと思えます。皆様のご支援やご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成24年3月

広島県医師会常任理事
有田 健一